



**荒岡 大輔** (あらおか だいすけ) 地圏資源環境研究部門 (鉱物資源研究グループ)

2014年4月より、任期付研究員として地圏資源環境研究部門鉱物資源研究グループに配属になりました、荒岡大輔と申します。私は、慶応義塾大学理工学部応用化学科を卒業し、東京大学大学院新領域創成科学研究科の修士課程を経て、2014年3月に同大学院にて博士の学位を取得いたしました。専門は地球化学で、同位体を使った古気候・古海洋学や年代測定学、物質循環に関する研究を行ってきました。学部課程ではサンゴの骨格の微量元素組成に基づいた古海水温復元について、修士ではサンゴ化石の放射年代測定による津波再来周期について、琉球列島を対象に研究を行ってきました。博士課程ではリチウムの同位体比に着目し、河川水や地下水、海底熱水系でのリチウムの挙動や、岩塩型リチウム鉱床の成因を通じて、地球表層でのリチウム循環に関して考察してきました。

今後は、今までに学んできた地球化学の知識を生かし、レアメタルに関連した鉱床の成因や資源ポテンシャルの評価に関する研究を実施していく予定です。特に、野外調査を通じて岩石・鉱物学や鉱床学について新た



に勉強していきたいと思っております。また、産総研地質分野の専門の多様さを生かし、様々な分野の方と幅広い共同研究を展開していけたらと考えております。今後ともご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願いいたします



**森 宏** (もり ひろし) 活断層・火山研究部門 (地震災害予測研究グループ)

活断層・火山研究部門、地震災害予測研究グループに特別研究員として配属されました、森宏と申します。これまでの研究では、沈み込み帯の温度構造に着目するとともに、数百万年もしくは数千万年の長期間の時間スケールで形成された地質構造を対象としてきました。卒業研究では沈み込み帯浅部・付加体(美濃-丹波帯)における流体包有物解析を用いた付加体形成時の温度-圧力条件の制約、修士研究では沈み込み帯深部・高圧変成帯(三波川帯)において岩石の変形段階分離および褶曲記載を中心とした構造解析による初生的温度構造と現在の地質構造との関係究明、博士研究では内陸横ずれ断層(中央構造線)を対象として炭質物ラマン分光分析を用いた剪断熱検出および断層強度制約に取り組んできました。

今後は、反射法地震探査によって得られた反射断面の地質学的解釈を行う予定です。そして、これまでの



地質学的な研究経験と、新たに身に付けていく技術・知識を融合させ、高精度かつ広域的な地質構造の解明に努めていきたいと考えております。



**江島 輝美** (えじま てるみ)

地圏資源環境研究部門 (鉱物資源研究グループ)

2013年9月から地圏資源環境研究部門鉱物資源研究グループにポスドクとして所属させていただいている江島輝美です。2013年3月に島根大学で博士号を習得した後、九州大学で学術研究員をさせていただいていました。現在は、「堆積岩および風化した花崗岩中のREE含有量とREE鉱物の分布」、「地殻から上部マントル環境下における鉱物の3価鉄の存在状態と存在領域の解明」に関する研究を行っています。研究の専門分野は、鉱物学および結晶学です。X線回折装置 (XRD)、電子線微小部分分析装置 (EPMA)、メスバウアー分光分析、Raman分光分析、透過型電子顕微鏡 (HR-TEM) を用いた研究をメインとして行ってきました。

現在のグループでは、資源についての研究を



行っている中で、鉱物資源および資源地質に関して理解を深めていきたいと考えています。よろしくお願いします。



**松崎 賢史** (まつざき けんじ)

Kenji Marc Raymond Matsuzaki

地質情報研究部門 (海洋地質研究グループ)

2014年4月1日付けで産総研特別研究員として地質情報研究部門・海洋地質研究グループに配属となりました松崎賢史と申します。専門は微化石学と古海洋学です。深海堆積物に保存されている挂質微化石である放散虫の群集変化を用いて過去の海洋循環と古水温の変動などを復元しています。これまでに、東北日本の下北沖や南西日本の紀伊半島沖から採取されたコアについて、前期更新世から現在まで(過去200万年間)の研究を行ってきました。これらの海域は暖流の影響を受けており(黒潮および津軽暖流)、更新世における暖流の勢力が著しく変化していたことを明らかにしました。

フランスのパリで日本人の父とフランス人の母から生まれて、その後いくつかの国で教育を受け、幼少の頃から様々な文化や言語を学んできました。その中でも恐竜の化石に興味を持ち、フランスのBORDEAUX第1大学の地球科学科に入学をしました。また、BORDEAUX第1大学の修士課程では、東北大学に留学をして日本の微化石研究の文化に接する機会を得ました。博士課程では東北大学に編入学して、2013年に学位を取得しました。



産総研には様々な分野の研究者が多くいらっしゃいます。この機会を生きかし、これまで以上に視野を拡げてよりインパクトのある研究を進めていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。